

3. 28 全国患者・家族大集会

1. 名 称 国民に負担を押しつける「医療制度改革」反対！
難病患者、障害者、高齢者が安心して暮らせる社会の実現を
3. 28 全国患者・家族大集会

2. 日 時 2002年3月28日(木) 15:00~20:00

3. 会 場 弁護士会館2F クレオホール

4. サブスローガン(キーワード)

- ・ 難病対策を後退させないで一層の充実と総合対策の早期確立を
- ・ すべての子どもの医療費を無料に
- ・ 小児慢性特定疾患の医療費補助を20歳以上にも延長して
- ・ 難病患者、障害者、高齢者の介護の充実と負担の軽減を
- ・ 健康保険料の増額と給付の引き下げ反対
- ・ 高齢者の医療費自己負担の増額反対
- ・ 医療に貧富の差を持ち込む自由診療、混合診療の導入反対
- ・ 医療被害・薬害の根絶と被害者の早期救済制度の確立を

国民に負担を押しつける「医療制度改革」反対！

難病患者、障害者、高齢者が安心して暮らせる社会の実現を

3.28全国患者・家族大集会

〈よびかけ〉

難病対策が始まって30年を迎え、いま、厚生労働省は抜本見直しの作業を進めています。見直しの検討の中では、研究成果がある程度上がったと思われる疾患や、治療法が一定程度開発されたと見られる疾患の研究事業・医療費補助対象からの除外や、他の疾患との入れ替え、軽症患者や寛解期の除外などが検討されています。さらに対象疾患を稀少・重症患者に限定しようとの動きもあり、また「研究」と「福祉」を切り離すという議論も出てきています。

小泉内閣による「聖域なき構造改革」の大号令の下に「補助金の見直し」の対象とされていることが大きな要因のひとつです。

一方で、まだ何の支援の手も差しのべられていない難病がたくさんあります。多くの患者・家族が医療費の負担にあえぎ、未来への展望も希望も持てないでいます。

私たちはこの30年間拡大と充実・発展してきた、世界に例を見ないと言われるこの難病

対策をさらに充実・発展させることこそが、多くの難病患者・家族を救う道であり、多くの国民の期待に応える道であると考えています。

小児慢性特定疾患治療研究事業も、補助金削減によって「制度の維持存続が難しい」として、「法制化」を視野に入れた見直しが進められています。検討会では「新たな疾患の追加を」「20歳で打ち切るとは疑問」「福祉、教育の支援を」などの拡充意見が出されつつも、現実論としては、限られた予算枠のなかでできることをやるとして、対象疾患・対象者の適用範囲の設定、患者負担の導入が検討されています。

「未来を担う子どもたちのために制度を安定、拡充してほしい」との親の願いは、「医療制度改革」の限られた枠のなかではまったく展望が見えません。

また、介護保険制度が始まり、収入が無く、ただでさえ医療費や通院費の負担に困っている難病患者や障害者・高齢者の経済的負担を大きくしています。せっかくの介護保険も受けられるサービスの内容が不十分で、難病患者や小児難病、慢性疾患の患者は必要な介護や支援を受けられません。従来の福祉サービスと比べ質・量が低下した部分もあり、生活がかえって苦しいものになった人さえいます。疾患の種類や他法優先のため介護保険の対象とならない人も少なくありません。一日も早く介護保険の見直しが必要です。

重度障害者医療の自治体の助成も次々と後退し、さらに、透析患者の医療に対しても自己負担を導入するべきだという有力国会議員の発言まで現れ、透析患者・家族を不安に陥れています。

私たちは生きていくために、日常的に医療を必要としています。

全国のどこに住んでいても、より高度な医療を安心して受けられるようにと心から願っています。

私たちは今の国の施策とその方針が、私たちの生活そのものを奪うものになるのではないかと強い危機と不安を抱えています。

憲法が保障するように、難病患者であっても、障害者であっても、高齢者であっても、他の国民と同じように生きていくことができる社会、未来に希望を持ち日々充実し安心して暮らせる社会をつくり、そして守り続けていかなければならないと思います。

また私たちは、診療報酬の引き下げが医療の質の低下を招いたり、必要な治療や入院が抑制される結果となることを強く懸念します。

長期入院が必要でありながら、短期間に病院をたらい廻しにされなければならない現実があることを国は知らないのでしょうか。私たちには長期の入院や心のケアも必要なのです。保険料の引き上げや医療費自己負担の限度額の引き上げは私たちの闘病生活をますます苦しいものとし、多くの国民の健康と将来への不安を大きくしています。

私たちは、難病患者や長期慢性疾患の患者、障害者や高齢者から医療を取り上げるような「医療制度改革」には反対です。

私たちが安心して希望を持った生活ができるような社会の実現をめざすことは、大多数の国民の願いでもあります。

私たちが自らの希望と要望を持って行動を起こすことは、多くの国民の願いを具体化するものであると考えます。

3.28全国患者・家族大集会に多くの患者・家族の皆さんが参加されること、そして患者・家族団体が実行委員会に参加されることを呼びかけます。